

「標準外科学 第4版」

新潟大学教授 武 藤 輝 一 編集
元杏林大学教授 相 馬 智

京都大学教授
戸 部 隆 吉

標準外科学第4版が改訂上梓された。

通読して感ずることは、外科学総論・外科学各論の膨大な内容を、必須な知識はほとんどもらすことなく、しかも極めて多い最新の情報をよく整理し、平易に簡潔にまとめているということである。わかりやすい説明を付した図がふんだんに用いられており、理解を更に容易にしているのも印象的である。

第1版序文に編集者の武藤輝一教授が、本書は undergraduate から

国家試験に合格した研修医に至るまでの医学生・医師を対象として書かれた外科学の手引書であることと、生理学・生化学的感觉を盛り込み、機能的外科学を重視し、膨大な情報を重点的なとらえ方で記述し、疾患の成り立ちと症状の関連と治療法を把握させるという基本方針をかかげておられるが、第4版に至るまで、この方針は貫かれており、広範な範囲の知識がよく整理されて、学生を対象とした手引書としてはよく平易・簡潔にまとめられている。

本書は武藤輝一教授・故相馬智教授ら昭和29年卒業の27名の、現在第一線で活躍中の中堅層の教授が、学問にとらわれることなく、それぞれの専門分野の領域の項目を、簡潔にわかりやすくまとめられた、わが国の外科学教科書としては画期的なものであるが、約10年の間に4回も改訂を加えられ、まさに日進月歩する新たな情報を、常に新たな知識を盛り込んでこられた努力と誠意には深い尊敬の念を懐くものである。

もとより序文で編集者も述べておられるとおり、handyな1冊本にすべてをまとめざるを得ないという制限のもとでは、内容が簡潔にすぎ、深みに欠けるという不満がないでもないが、必須の知識はほとんどすべて織り込まれており、教科書としても適当な外科学の手引書である。

B5判 772頁 図471 1985

¥7,000 ㊦400

医学書院 刊